

子ども子育て支援事業計画は



河合克平 議員

質問

市が行っている施策については全部が重要であると思うが、特に子育ての支援をするという政策は最優先に行っていくべきではないか。市の見解は。

市長

未来を担う子どもたちへの施策、そのほか医療、介護、福祉、教育、インフラ、数多くの事業がある。全て市にとって重要な施策である。多くの施策、事業の実現には、財源確保、そして持続可能な行政運営が必要

だ。将来に責任ある礎を築くために、現在努力をしている。

質問

子どもの医療費の無料化をすすめる会から、子どもの医療費無料化を中学校卒業まで拡大することを求める請願書が8千304人の署名、全人口の1割以上の方の賛同があり提出された。これは子育て支援として子どもの医療費無料化を即時拡大の要望が非常に高いことのアラわれだ。この市民の思いに対する市の評価と、いつまでにその実現をす

るのか尋ねる。

市民生活部長

今回、請願書署名者8千304名の、多くの署名があったことについては真摯に受けとめている。追加の経費が必要である。限られた予算の範囲で検討しなければならぬ。現在は未定である。

質問

医療費の無料化を小学校3年生まで拡大をしたとき、それから小学校6年生まで拡大をしたとき、それぞれ予算措置の金額、決算の金額、中学生の3年生までの無料化の費用は。

市民生活部長

平成20年4月1日より、小学3年生まで拡大をしたとき、当初予算は3億3千669万円、決算額は1億9千225万円であった。また、平成22年4月1日から小学6年生まで拡大し、当初予算は3億4千250万円、決算額が2億4千21万円であった。中学生まで拡大についての負担額は、6千724万円を見込んで

いる。

質問

小学校3年生から小学校6年生の3年間に拡大するときには決算ベースで4千600万増だとすると6千720万円は過大である。署名請願があった8千304人の思いに添えるため、市として拡大する決断を求める。また、財政力指数で変わらない群馬県は、中学校卒業まで医療費無料化してい

市長

る。知事は「子どもの医療費無料化は、活力ある豊かな社会を築くための未来への投資」と答えている。当市もその考え方で医療費の無料化をするべきだ。

県・国において統一した制度を実現すべきと考える。

その他の質問

・放課後子ども教室について

